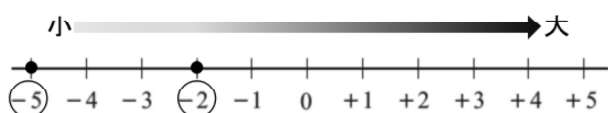


1 (1)

解 答 $<$

解 説

問題の数を数直線上に表すと、下の図のようになる。



数直線上では、右にある数ほど大きく、左にある数ほど小さいので、 -5 よりも -2 のほうが大きい。

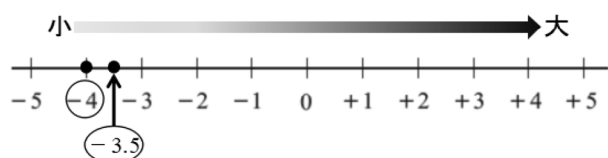
よって、 $-5 < -2$

1 (2)

解 答 $<$

解 説

問題の数を数直線上に表すと、下の図のようになる。



数直線上では、右にある数ほど大きく、左にある数ほど小さいので、 -4 よりも -3.5 のほうが大きい。

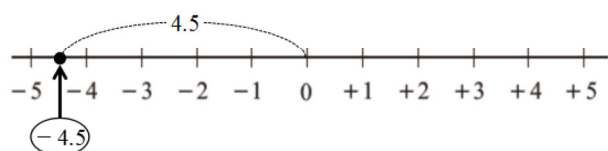
よって、 $-4 < -3.5$

2 (1)

解 答 4.5

解 説

絶対値は原点との距離なので、 -4.5 の絶対値は 4.5

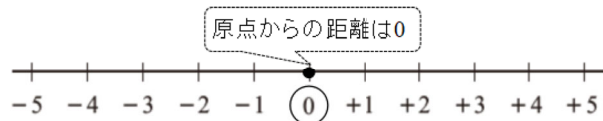


2 (2)

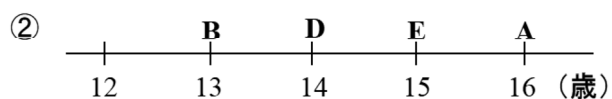
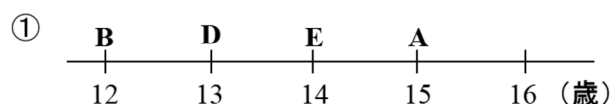
解 答 0

解 説

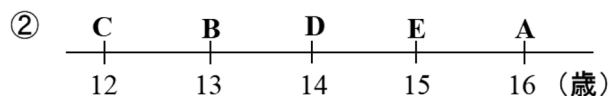
絶対値は原点からの距離で、 0 は原点なので、絶対値は 0



「EはDより1歳年上である」より、それぞれのパターンにDとEを入れると、以下ようになる。



残る条件「CとDの年齢の差は2歳」を考えると、パターン①ではないことがわかる。よって5人の年齢は次のようになり、Cは12歳とわかる。



4

解 答 ア

解 説 条件のうち、「最年長は16歳、最年少は12

歳」「5人のうち、同じ年齢の人がいない」の2つから、5人の年齢は12, 13, 14, 15, 16歳だとわかる。次に、「AはBより3歳年上」より、考えられるのは下の2パターンに限定される。

